

前期学生大会

学生生活の更なる充実を



発行所 東京薬科大学 新聞会
責任者 矢内 光

七月号

七月七日の三・四限目に、体育館で平成十一年度前期定期例学生大会が行われる。学生大会の議題の大意は左記の通りである。

一、あいさつ

自治委員会では、自治委員である全学生及び各部活の意志が反映されるように、議長団を軸に活動していきたいと思ひます。一年間よろしくお願ひします。

二、自治委員会

自治委員会は、自治委員である全学生及び各部活の意志が反映されるように、議長団を軸に活動していきたいと思ひます。一年間よろしくお願ひします。

三、新聞会

新聞会の役割は「東京薬科大学新聞」を発行することにより、皆さんに「正確な」情報を「正確に」伝えることです。また、記事の内容は広範囲に渡るものでなければなりません。そのためには皆さんの御協力を願ひします。

四、東薬祭運営委員会

六月に発足いたしました当委員会の活動も、十一月の本番に向け活発になってきております。今年度も開催期間を三日間とし、中夜祭・後夜祭・音楽祭・Nステーション他、特別企画を予定しております。なほ、今年も「Miss 東薬コンテスト」を大々的に行う予定です。より一層皆様に楽しんで頂ける事と思ひます。

五、体育祭実行特別小委員会

今年度は体育祭を十月十三日に開催致します。日頃の運動不足を解消する場として、一般学生や研究室の方々に多数参加して頂き、今まで以上に盛り上がる体育祭になればと思ひます。多数の参加をお待ちしております。

六、選挙法細則

改正について自治会をより円滑に運営するため、学生自治会規約選挙法細則の第七条を改正したいと思ひます。

七、新監査システム

改正について昨年度の予算委員会において決定した新監査システムについて、試験期間の延長を今年度の予算委員会で決定しました。また、今年度はサンプル団体を昨年度十団体だったのを、二十団体に実施していく予定です。

平成十一年度前期学生大会議題

- 1、あいさつ
- 2、自治委員会
- 3、新聞会
- 4、東薬祭運営委員会
- 5、体育祭実行特別小委員会
- 6、選挙法細則の改正について
- 7、自治会会則の改正について
- 8、学友会細則及び同好会細則の改正について
- 9、新監査システムについて
- 10、平成十年度決算報告について
- 11、平成十年度監査報告について
- 12、平成十一年度予算案

練習問題

a) を思う (〜に思う)
b) を考える

① 区別して使うのが普通な a と b の例を、それぞれ三つ書いて下さい。

② 「考える」と「思う」の違いを書いて下さい。

この問題に即答できる人はおそろしく少ないのではなからうか。右の練習問題は岩波新書『日本語練習帳』からの抜粋である。

日本語練習帳

大野 晋著

ではここで、冒頭の問題の「思う」と「考える」の違いを、言い換え不可能な例を挙げながら考えてみます。国語学者である著者によると「思う」とは、故郷を思う、不満に思う等の様に一つのイメージが心にあって、それが変わるに過ぎない。それが変わるに過ぎない理由のようだ。

「思う」と「考える」の違いを、言い換え不可能な例を挙げながら考えてみます。国語学者である著者によると「思う」とは、故郷を思う、不満に思う等の様に一つのイメージが心にあって、それが変わるに過ぎない。それが変わるに過ぎない理由のようだ。

クリーンキャンペーン終了

五月十日から六月九日まで学生部等の主催で、クリーンキャンペーンが実施された。そこで、キャンペーン終了に当たって学生部から言葉を頂いた。

「今回のキャンペーンでは、いくつかの場所を重点地区に指定し、ごみのポイ捨てをしないように呼び掛けました。その結果、生協の談話室などで著しい成果をあげ、キャンパス全体がかなりきれいになりました。これが、このキャンペーンの目的です。何よりも学生・職員の方々の協力の賜物であり、心より感謝致します。

だが、まだコミュニケーションプラザから教育棟に入る階段に、ごみが散らかっていたりするのの行いが、それに伴って全学の状況が判断され、本学に對する評価を下げ、就職などに悪い影響を与えています。さらに先日、消防署から火災予防のために、吸い殻を散らかさないようにとの厳重な注意を受けました。

そこで、まだポイ捨てをしている一部の心ない人に言いたい。『それでは諸君は本当に大学生なのか? 他大学にはそんな学生はいない。』

クリーンキャンペーンは単なるキャンパス美化が目的ではありません。二十一世紀を目前にし、私たちは人口に比べて乏しい資源を世界中の人々と分け合わねばならず、自分勝手な独善主義は許されません。ポイ捨てを止めることは、そういう身勝手への防壁となるモラルを養うための第一歩です。よって、キャンパス美化の努力はこれからも続けていきます。学生、職員の皆様には引き続き積極的な協力をお願い致します。

一部省略させて頂いたが主旨は伝わったことと思ふ。より過ごしやすいキャンパスになるように、各自が美化を心掛けて欲しい。



先月十五日、所ジョージのCMで馴染みの「ドリームジャムボ宝くじ」の当選番号が発表された。今回は三千元など少額賞金の宝くじの一部が無くなった。その代わりに高額を望む購入者に応えるため、一等賞金が二億円に、最高当選金額が前後賞合わせて三億円に増額された。三億円を夢見て思わず買ってしまった人もいたろう。◆日本の宝くじは一体いつ頃から始まったのだろうか。その起源は、江戸時代に神社の修復費用を調達する方法の一つであった「富くじ」と言われていた。しかし「宝くじ」として発売されたのは最近である。日本最初の宝くじ第一号は、昭和二十一年に戦災からの復興と戦後の激しいインフレの防止を目的として、政府から発行された。一枚十円で販売され、一等賞金は十万円だった。大根の値段が一本二円の時代の話である。さらに、副賞として当時貴重な煙草も付いた。これが人気を呼んで、この宝くじは偽物が出るほど大好評だった。それが平成七年の阪神・淡路大震災では、宝くじも災害復興に一役買った。兵庫県と神戸市が全国に協力を求め「阪神・淡路大震災復興宝くじ」を発売したのを、これが全国で災害復興を目的に発売された最初の宝くじであった。◆今回のドリームジャンボ宝くじを私は十枚購入しただけであった。きつと大部分の人がこんな結果に終わっているだろう。それでも宝くじを買う理由は、当選番号の発表まで「もし当たったら」と考えて、日々期待を膨らませるという魅力があるからだと思ふ。もし当たったら明日の新聞にあなたの番号が載っているかもしれない。(俺様?)

情報センター改修

創立百二十周年記念事業

二〇〇〇年に本学は創立百二十周年を迎える。それを記念した行事の一つとして、情報センターの改修工事が行われる。そこで新聞会ではこの工事の目的と、どのように情報センターが変わるかについて取材した。

今回の改修の目的は、情報化社会の多様なニーズに応えられるように、施設をより充実したものにするのだ。そう、では、具体的にどのような点が変わるのだろうか。

まず第一に、業務・サービスがコンピュータ化される。これにより、従来の貸出カードに替わって、学生証の提示だけで貸出・返却ができるようになる。この事については以前から改善を望む声が出ており、学生にとっては嬉しいニュースだろう。また、所蔵目録がデータベース化され、目録検索システムが導入される。それにより、目録カードからの検索に替わって、パソコン上で本を探すができることになる。このため目録カードを一枚一枚調べる手間

が省け、より短時間で探すことができる。さらに、この書名、著者名であっても探し出すことが可能となる。もちろんパソコンが苦手な人のために、従来の目録カードもしばらくは設置しておくとのことだ。

第二に、現在情報センター入り口に設置されている掲示板に替わって、投影掲示板システムが導入される。これによって、図書・雑誌の新着情報、臨時閉館日、図書未返却者など、様々な情報をパソコンから直接掲示板に映し出すことができるようになる。

第三に、三階の学習室の一部改修と同時に、ネットワーク閲覧室が新設される。ここには、Windows PC五台、iMac二十台、ネットワークプリンター三台等が設置され、より多くの人が利用できることになる。また、この改修に伴い、学習室の机や椅子なども新しくなる。その他にも、じゅうたんの張り替え、照明器具の増設などの内装工事も行われ、より

休館

八月二日～八月三十一日

LAN関連サービスの休止

サービス内容

- ・CA, ADONISデータベース
- ・メールによる相互利用
- ・希望図書の受付
- ・ホームページの提供

八月二日～九月十四日

そこで、新聞会では新委員長に抱負を伺った。

「突然ですが、皆さんは東薬祭をどうやって御存知ですか? 知っているつもりでも、その年ごとに少しずつ違ってくるハズ。『伝統を残しつつも新しく』が座右の銘ですから、今年も、予想以上に多くの一年生を迎えました。若さ溢れる彼らをまたとめていく責任の重さを痛感しています。その中で、新役員の間が長いこととは、東薬祭成功への自信となっています。今年の東薬祭を御期待下さい。皆さんの参加をお待ちしております。」

尚、今年の東薬祭は、十月三十日から三日間にわたって行われる。テーマは「のぞき夢限り無く」に決まり、現在順調に進んでいる。詳細については次号で紹介する予定である。

東薬祭発動

平成十一年度の東薬祭運営委員会が、六月に発足した。執行は以下の通りである。

- 委員長 深瀬 祐一
副委員長 池永 和浩
岩田 純子
総務部長 岩崎 純子
企画部長 木村 幸秀
渉外部長 衣川 佳伸

大学と学生の対話を

先日、日本で四度目の脳死移植が実施された。今年二月末に最初の脳死移植が行われてから約四ヶ月余りのことである。これからは多くの脳死移植が行われるはずだ。私達も、何かしら脳死や臓器移植について考えておく必要があるのではないかと、

だが、これらの問題はあまりにも複雑で、一般論として「どうあるべきか」という意見を出すのが難しい。「臓器移植法」によって、脳死移植は法的に認められているが、脳死移植への賛否や「脳死」人の死を認めるか否か、などの意見はその人の価値観によって左右されてしまうからだ。

先月号に掲載したアンケート結果に、学生部部長斎田誠一先生に意見を伺った。

まず、「授業内容」に関しては、東薬部での一クラス当たり人数が多すぎる、という意見が数多くみられた。

「その問題は、以前から盛んに議論されてきた。『薬学入門』は今年から二クラスずつにしたところ、出席率が良くなった。教育棟の拡張計画も検討され始めた。」

次に「交通・立地」に関する質問では、バスの不便さを指摘する意見が多かった。

「バスの問題は、すでに財政上の限度に達している。だが、不便さについては教職員の理解もあまり少く、改善を試みている。時間外のバスの運行もその一例だ。しかし、それよりも大きな問題なのは、四月頃に豊田のバス停での軋り込みである。イギリスには、「Queuing」という決して割り込みをしないという

また臓器提供を希望している死者の意志に対して家族がどう思うか、臓器移植による治療を希望している患者とその家族の考えなども考慮しなければならない。

このように「生命」に関する問題について、個人の価値観における判断の在り方や、

「生命倫理」を学識者間の議論だけに任せず、私達も積極的に考えていかなければならない。(重田)

生命倫理を考える

社会的合意を目指して行われている研究を「生命倫理」と言う。将来「生命」に関わる職業に就く私達にとって、避けて通れないものである。しかし「生命倫理」の範囲は広い。全てを理解し「生命」に対する考え方の基盤として身に付けるには時間がかかる。

「生命倫理」は、私達一人ひとりが「生命」と向き合う為に冷静に考えていくものである。脳死など「生命」に関する問題が私達に問われているからこそ「生命倫理」を学識者間の議論だけに任せず、私達も積極的に考えていかなければならない。(重田)

行事予定

- 七月
- 七日 (水) 前期学生大会
- 十六日 (金) 前期授業終了
- 二十日 (木)
- 二十三日 (金) 前期試験
- 八月
- 二日 (月) 夏期休暇開始
- 九月
- 十六日 (木) 後期授業開始
- 一九九九年七月の月、中世フランスの医師ノストラダムスによれば、今月は人類滅亡の月だそう。皆さんは何処までこの予言を信じますか? 中には本気で信じている人達がいて、独自の解釈を本にまともしている。これがなかなか面白い。一度読んでみては? でも、あの予言は旧暦だから本当は九月でしょ? (次男坊)

編集後記

「人間、ガツン」と言えねばなりません。もっとも私は言えませんが。(久方)

♪今年の夏休みの目標はハイパーカードを作ること。誰か教えて下さい。ちなみに、私はドナーカードを持ってます。脳死になったら臓器提供をする予定です。(睦月)

例今のところ、私は臓器提供をするつもりは、これっぽっちもありません。後、今年の夏休みの目標は、ドナーカードを偽造すること。(岸)

☆雑誌様集集中。恐怖の大王御一行様も同時募集(えせ)

☆部室様のユニマットを壊したのは私です。(淳)

☆なんかも最近、ストレスがたまっています。そうか、土曜日に用事がたまりました。いいだ。ああ、何かを破壊したい衝動が。(E)

♪あつー印刷が終わってしま。速く編集後記を打たないと何行やない、やばいよ、やなやばです。(月華)